

6月25日正午必着

明石春浦先生書



涼聲度竹風如雨、碎影搖窓月在松 (文徵明)

竹林を吹き渡る風声は雨の如く、窓にうつる松影は碎けうごいて月が松にかかっている。

菅井松雲先生書



大風起兮雲飛揚 (漢・高祖)

大風が吹きすさび雲が飛ぶように舞い上っていく、意気揚々たるさま。



明石幸子書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

月落江路黒 前村人語稀
幾家深樹裏 一夜漁歸

(項斯)

月は西に沈みて江邊の路も暗くなった。夜も追々とふけて前村では人の聲もあまりしなくなった。深樹の中には幾軒かの人家がしずまりかえっている。その中の一軒の家にはまだ燈火が見える。たぶんそれは漁から今歸ったところであろう。

雲聳奇峯 (元帝)

雲は奇峯を聳えしむ

陶淵明の詩に「夏雲奇峰多し」
夏の天空によくあらわる、峯巒状の雲。

月來池上花光淨
雨過園林竹露濃

(袁宏道)

月は池上に来て花光淨く
雨は園林を過ぎて竹露濃し。

月は池上をてらして蓮花清く、雨は園林をすぎて竹にやどる露もこまやかである。

七里灘

(許渾)

七里灘

許渾

天晚日沉沉

孤舟繫柳陰

天晚れて日沈沈たり 孤舟 柳陰に繫ぐ

江村平見寺

山郭遠聞砧

江村 平らかに寺を見 山郭 遠く砧を聞く

樹密猿聲響

波澄雁影深

樹は密にして猿声響き 波は澄みて雁影深し

榮華暫時事

誰識子陵心

榮華 暫時の事 誰か子陵が心を識らん

夏は來ぬ相模の海の南風にわが瞳もゆわがこころ燃ゆ

(吉井勇)

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

眠 樹
草 静
禽

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

秋夜宿淮口
露白草猶青
淮舟倚岸停
風帆幾處客
天地兩河星
樹靜禽眠草
沙寒鹿過汀
明朝誰結伴
直去泛滄溟

隸書

秋夜宿淮口
露白草猶青
淮舟倚岸停
風帆幾處客
天地兩河星
樹靜禽眠草
沙寒鹿過汀
明朝誰結伴
直去泛滄溟

明石春浦先生書

秋夜宿淮口

景池

露白草猶青
淮舟倚岸停
風帆幾處客
天地兩河星
樹靜禽眠草
沙寒鹿過汀
明朝誰結伴
直去泛滄溟

秋夜 淮口に宿す 景池

露白くして 草は猶お青し

淮舟 岸に寄りて停まる

風帆 幾処の客

天地 両河の星

樹静かにして 禽は草に眠り

砂寒うして 鹿は汀を過ぐ

明朝 誰か伴を結び

直ちに去って 滄溟に泛ばん

草書

秋夜宿淮口
露白草猶青
淮舟倚岸停
風帆幾處客
天地兩河星
樹靜禽眠草
沙寒鹿過汀
明朝誰結伴
直去泛滄溟

行草書

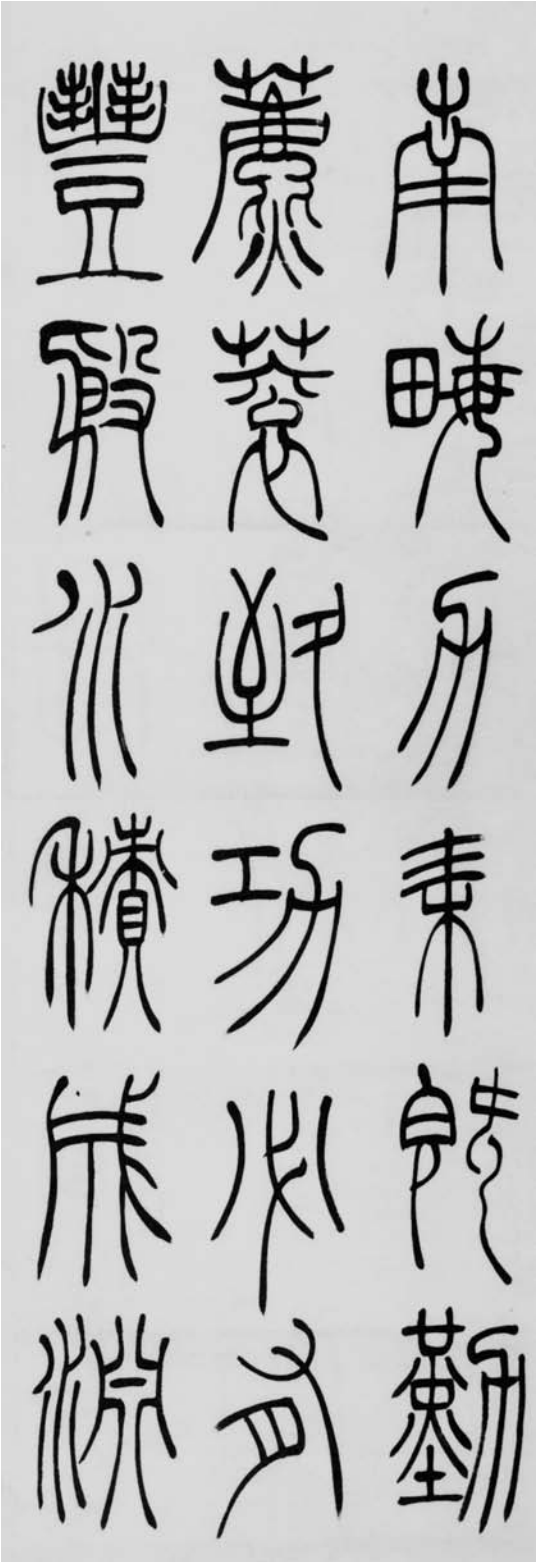
秋夜宿淮口
露白草猶青
淮舟倚岸停
風帆幾處客
天地兩河星
樹靜禽眠草
沙寒鹿過汀
明朝誰結伴
直去泛滄溟

露の白くおるころ、草はなおも青々と茂る 淮水を行く舟は岸によりそって碇泊する

風に帆をかけて、彼方、此方へ向かう旅人 空には天の川、地上には淮水、それぞれにきらめく星 樹木は静まって、鳥は草の中に眠り 岸の砂は冷たく、鹿が汀を駆け過ぎる

明日の朝、私と連れだって まっすぐに大海に浮ぼうという人はないものだろうか

条幅部半紙部臨書課題



安心恬蕩棲志／浮雲体之以質／彪之以文如彼 南敵力未既動／鹿姿致功必有／豊殷水積成淵
 心を恬蕩に安んじ、志を浮雲に棲ましめ 之を体するに質を以てし、之を彪るに文を以てす 彼の南敵に如き、未を力めて既に勤め 鹿り姿えて功を致さば、
 必ず豊殷有らん 水は積もりて淵と成り、

6月25日正午必着



鹿り蕙えて功を致さば、



(彼の)南敵に(如き)、未を力めて既に勤め 鹿り蕙えて功を致さば、必ず豊殷有らん

清 吳熙載 張 茂先勵志詩

吳熙載は嘉慶四年(一七九九)江蘇省儀徵に生まれ、同治九年(一八七〇)七十一歳で没したとされているが、異説もある。名ははじめ延颺、字を熙載といい、後に熙載を名とし字を讓之とした。号は讓翁、晩学居士などと称した。

包世臣(一七七五〜一八五五)に師事し、楷行草書においてその理論と技法に信奉して深い薰陶を受け、二十代の若さにして師にその資質を高く評価されていたと言われている。また吳熙載は、師包世臣が崇拜した鄧石如(一七四三〜一八〇五)に私淑し、彼の篆隸書・篆刻は全く鄧法を受け継いだものと言われている。さらに画もよくし、彼の書画篆刻はいずれも高い評価を受けている。

この張茂先勵志詩は、彼が最も得意とした篆書の作品の一つで、流麗な運筆のなかに縦長の字形に緊密な結体をほどこし、丸みと張りのある線質で表現されている。縦画のほとんどの終筆は穂先をとがらせ中心で抜く技法を見せている。

長脚で優美な吳熙載の篆書の技法をじっくり堪能したい。

(春濤)

6月25日正午必着

教育部毛筆



わく
惑

せい
星

中学一年

雨宮春聲先生書



しん
神

び
秘

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



はつ
発

めい
明

小学五年

藤井良泰先生書



し
資

かく
格

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着



あま
雨

おと
音

小学三年

細谷春誠先生書



と
時

けい
計

小学四年

榎戸春龍先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

よ こ 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

ひろい 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

とはもんが広がった	池の中に石を投げる
-----------	-----------

小学五年

に虹のアーチがかかる	雨上がりの静かな山里
------------	------------

小学六年

の木々にこだまします	森林の小鳥の歌声が緑
------------	------------

中学

美しい思い出がよみがえる	趣のある庭園にたゞせば時
--------------	--------------

一般(級位)

の雲居にみゆる滝のしら糸	うきうきと笑きそめりそ
--------------	-------------

一般(段位)

山やまのみくへい、咲さききさめしより、久方ひさかたの雲居くもいにみゆる、滝たきのしら糸いと(源俊賴)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

に	か
	え
と	る
び	が
こ	
ん	い
だ	け

幼年

そ	せ
ら	い
に	ろ
か	の
か	に
る	じ
	が

小学一年

く	水
も	た
が	ま
う	り
つ	に
っ	白
た	い

小学二年

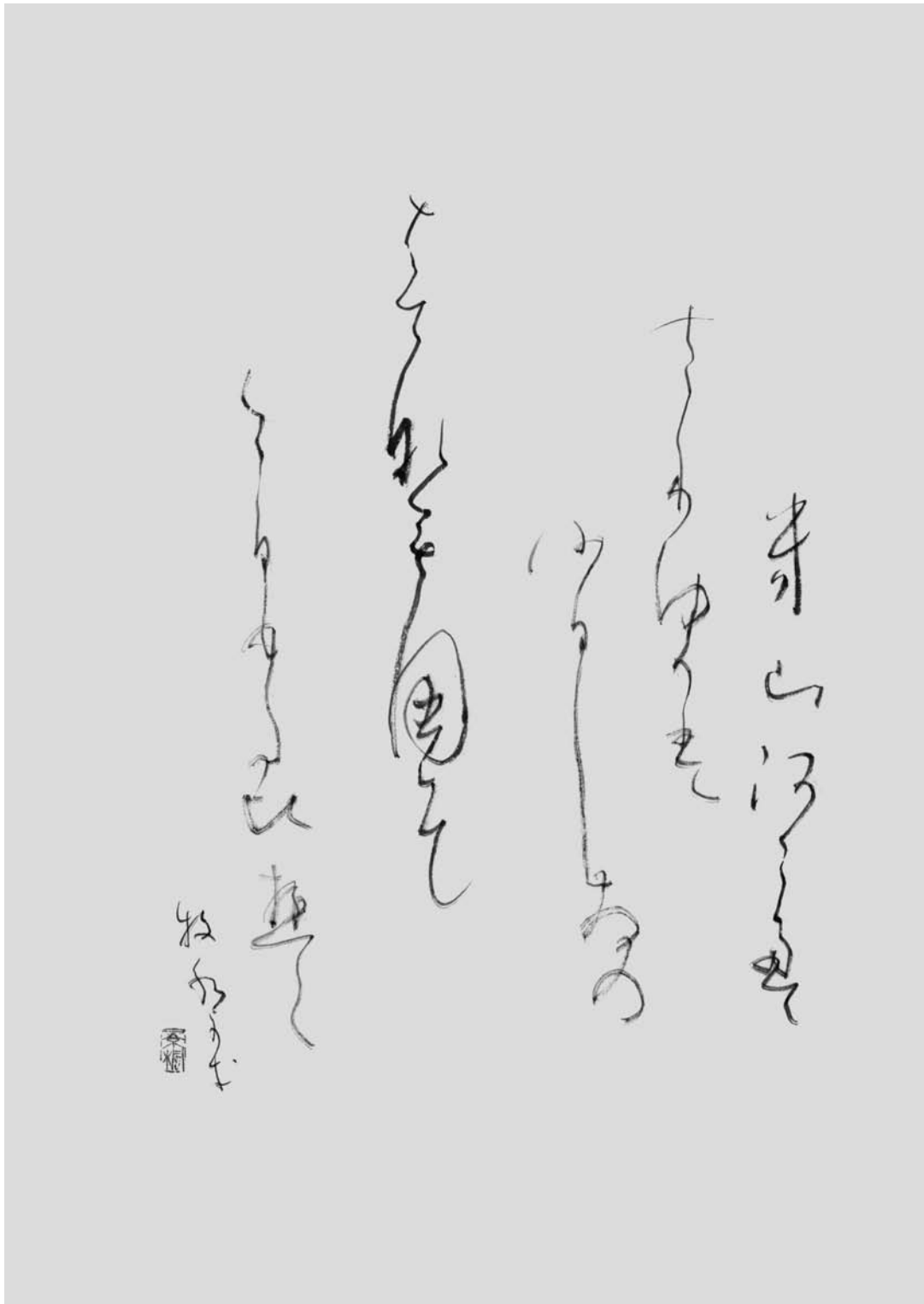
り	つ
な	ゆ
が	空
れ	を
る	ゆ
雨	っ
雲	く

小学三年

雲	ど
が	ん
流	よ
れ	り
て	と
行	し
く	た
	雨

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

幾山河
 こえさりゆかば
 盈
 利可盤
 沙日散
 さびしさの
 者
 はてなむ国ぞ
 那牟
 今日もたびゆく
 多比遊
 (若山牧水)

玄和書道会選抜

第40回記念



《特別企画》明石春浦遺作小品展

会期 平成25年 5月28日(火)～6月2日(日)
午前10時～午後6時 (最終日は午後4時閉館)

会場 東京銀座画廊・美術館 中央区銀座2-7-18
銀座貿易ビル8階 TEL 03(3564)1644

主催 玄和書道会 後援 毎日新聞社 (一財)毎日書道会

西 墨濤

三浦 士岳

明石 幸子	雨宮 春聲	窪田 華岳	菅井 松雲	森戸 春濤			
赤石 桂舟	朝川 龍雲	新井 春廣	猪股 永春	榎戸 春龍	遠藤美代子	桜井 青浦	
林 光浦	林 采園	昼間 翔雲	藤井 良泰	藤田 幸春	古澤 圭子	細谷 春誠	
堀内 千恵							
秋谷 照浦	和泉 素舟	石川 智紅	大村 静蘭	岡邑 清竹	押田 澄篁	加藤 玉泉	
川村 花邦	北原加枝子	鬼平不三思	河野 黎子	近藤 嵐光	斎藤 宵雨	坂上 司泉	
鈴木 蘭嘉	関根 鴨山	谷口 萌蘭	徳田 心鐸	中村 岳菽	中村 秀月	灰野 紅舟	
羽田 招佳	林 北雲	樋口 敦史	藤井 浩治	藤田 南龍	松川 春道	松本 翠蘭	
百井 華葉	山口 歳子	横山 澄寛	若林 何有				
青柳 玄歩	明石 雅佳	市川 清子	内田 澄香	海老澤 龍	鹿嶋 陽子	片岡 古翠	
加藤 白萌	木村 綾太	窪田 好美	後藤 澄谷	小林 華代	小林 桐花	齊木 芳節	
三林 紅雲	島根 梅香	白戸 香風	高橋 永萌	高橋 勝美	瀧澤 悦雅	多田 通夫	
東 未乾	野志 尚美	花村 早苗	原田 古瑤	本家 史苑	松崎 春箏	丸山 統子	
宮川 翠香	山口 美泉	山本 坦蕩					
明石 有平	飯田 翠風	石原 典子	石宝 麻美	伊藤 芳蘭	今井 理恵	上野 静子	
上村 昌仙	岡野伊予子	奥 光真	加田 悦子	金子 瑤春	鹿山 桂華	川口 篤子	
北原 佳玉	栗原 華泉	小牧 幸恵	斉藤 保堂	坂田 華月	澤田 陽花	白石 翠葉	
白坂 祥光	鈴木 蒼峰	鈴木 美春	鈴木 蘭水	須田 華舟	関根 華邨	田尾 華照	
高橋 南	竹下 春洋	竹下 青祥	田中 梨風	田宮 恵子	土田 江帆	戸丸 順子	
富澤 素翠	富田 美紀	中島 智子	南島 康治	西山 孝子	野見 里虹	羽賀 文子	
日置 華英	樋口 華行	福田 優虹	福留 松華	福留千代華	本間 溪僊	松崎 澄花	
三浦 美和	吉田 裕一	力丸 綾華	龍尾 志津	我妻 敬珠	渡邊 翠蘭		

※玄和5月号掲載の春墨展出品者 力丸綾華様のお名前に誤りがありましたので訂正して深くお詫び申し上げます。